

新典社 書籍注文書

TEL : 03-3233-8051 FAX : 03-3233-8053

Mail : info@shintensha.co.jp

取次番線印

ご発注日： 年 月 日
書店名：
書店コード：
ご担当者様名：
取次：
番線：
電話：
FAX：
MAIL：
コメント欄：

〈注意〉

※番線印ははっきりとご押印ください。

※お送りいただく注文書は、番線印の入った当ページの他、必要なページのみで差支えございません。

※価格は本体価格表記です。

※注文部数欄にスラッシュの入った書籍はご注文いただけません。

※在庫僅少などの理由でご注文いただけない場合もございます。ご了承ください。

※在庫の確認はお電話でも承っております。

※ご返信内容を読み取ることが難しい場合には、折り返しご連絡申し上げますので、
ご連絡先のご記入をお願い申し上げます。

その他、ご不明な点などがございましたら、電話番号またはメールアドレスに、
お気軽にお問い合わせください。

株式会社 新典社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-44-11

TEL03-3233-8051/FAX03-3233-8053

担当：IT事業部 工藤健司

Mail： info@shintensha.co.jp

◆新典社選書シリーズ◆

注文部数 冊	呉羽長 著 源氏物語の受容—現代作家の場合— 978-4-7879-6760-2 B6並製 224頁 1800円	新典社選書 10 川端康成の浮舟論他/円地文子の花散里論/中村真一郎の色好み論を中心とする源氏物語受容/田辺聖子の新源氏物語に至る源氏体験/瀬戸内寂聴の女人源氏物語を中心とする源氏体験。
注文部数 冊	小野恭靖 著 ことば遊びの文学史 978-4-7879-6761-9 B6並製 272頁 1800円	新典社選書 11 しゃれの文学史/判じ物の文学史・寄合の風流考/なぞの文学史・室町小歌と三段のなぞ/回文の文学史/その他ことば遊びの文学史(早口ことば・尻取りことば他)などの周縁文学に焦点を当てた。
注文部数 冊	工藤隆 著 歌垣と神話をさかのぼる—少数民族文化としての日本古代文学— 978-4-7879-6762-6 B6並製 256頁 1700円	新典社選書 12 少数民族文化の現地研究を、“日本文化論”との接点を意識しながら行ない、日本古代文学の全体を中国少数民族文化の一つとする視点から歌垣論・神話論を繰り広げる。日本の知識人必読。
注文部数 冊	芋生裕信 著 西脇順三郎の研究—『旅人かへらず』とその前後— 978-4-7879-6763-3 B6並製 208頁 1800円	新典社選書 13 「旅人かへらず」の中で「十年の間学問をすてた」とつぶやいた西脇順三郎。表現者としての西脇が転機にあった時に発表された「旅人かへらず」が形成する詩的世界の解明を試みる。
	達志保 著 徐福論—いまを生きる伝説— 978-4-7879-6764-0 B6並製 272頁 2300円	新典社選書 14 二十数ヶ所の伝承地で今なお伝説として息づく徐福。その豊かな民衆性と渡来説誕生の謎を实地調査と文献精査により、今、解き明かす!
注文部数 冊	小野恭靖 著 ことば遊びの世界 978-4-7879-6765-7 B6並製 224頁 1600円	新典社選書 15 入門編では、クイズと多彩な挿絵で“ことば遊び”の楽しさを実感。専門編では、江戸中期の瓦版資料、「判じ物」や漢字遊びの解説が、読者を“ことば遊び”の世界へ誘う。
注文部数 冊	加納重文 著 香椎からプロヴァンスへ—松本清張の文学— 978-4-7879-6766-4 B6並製 320頁 2300円	新典社選書 16 清張四十一歳にして作家となる。その総作品数は推理・風俗・評伝・歴史小説、昭和・古代史探求等五百数十。本書は全集収載の三百八十編を年代別に紹介し清張文学の軌跡に迫る。
	山下道代 著 陽成院—乱行の帝— 978-4-7879-6767-1 B6並製 192頁 1400円	新典社選書 17 九歳で天皇となり、十七歳で自らの乱行により退位させられ、八十五歳まで歴史の外側を生きた帝、陽成院。その数奇な生き様を、藤原摂関家が台頭してゆく時代を背景に、余すところなく描く。
注文部数 冊	三輪正胤 著 近代高野山の学問—遍照尊院栄秀事績考 978-4-7879-6768-8 B6並製 224頁 1600円	新典社選書 18 激動の明治初期に高野山を守り抜いた遍照尊院・栄秀。その事績を、年譜・伝授開書・和歌・漢詩等から探ることによって、近代における高野山の様相を明らかにした先駆的な一書。
注文部数 冊	青山学院大学文学部日本文学科 編 国際学術シンポジウム 源氏物語と和歌世界 978-4-7879-6769-5 B6並製 196頁 1500円	新典社選書 19 2006年1月、青山学院大学日本文学科が開催したシンポジウムを再構成。3名のパネリストによる源氏物語と和歌世界との関係に鋭く切り込んだ報告と、研究の展望、さらに、気鋭の研究者2名による論考を収録する。
注文部数 冊	倉田実 著 蜻蛉日記の養女迎え 978-4-7879-6770-1 B6並製 260頁 1800円	新典社選書 20 『蜻蛉日記』下巻に記された、道綱母が迎えた養女にかかわる記述を取り出して論じた一冊。
注文部数 冊	青山学院大学文学部日本文学科 編 国際学術シンポジウム 海を渡る文学 日本と東アジアの物語・詩・絵画・芸能 978-4-7879-6771-8 B6並製 196頁 1500円	新典社選書 21 2006年9月開催の国際シンポジウムを再構成。中世文学研究の問題意識を基本としつつ、東アジア全体を見渡す視野から中世における日本文学・文化を捉えなおす新たな試み。
注文部数 冊	中西進・辰巳正明 編 郷歌—注解と研究— 978-4-7879-6772-5 B6並製 272頁 1800円	新典社選書 22 「郷歌」は、万葉仮名の原典であると同時に、東アジア文化圏の古代歌謡を知る原典でもある。古代朝鮮半島の新羅に残された貴重な古代歌謡の全貌が、いま明らかになる。
注文部数 冊	荻野恭茂 著 晶子の美学—珠玉の百首鑑賞 978-4-7879-6773-2 B6並製 144頁 1260円	新典社選書 23 理想探求の使命に浪漫的修験者のような生涯を生きた女性、与謝野晶子。その心の宝石箱からこぼれた珠玉の短歌百首を鑑賞する。『みだれ髪』から50首、以降の歌集から50首を精選。初句索引付き。
注文部数 冊	濱口博章 著 万葉集宮廷歌人全注釈—虫麻呂・赤人・金村・千年— 978-4-7879-6774-9 B6並製 272頁 2000円	新典社選書 24 万葉集から、虫麻呂・赤人・金村・千年、四人の宮廷歌人の歌に焦点をあて、そのすべてに注釈を施した。昭和63年に発足した「芦屋萬葉集を読む会」における著者の集大成。
注文部数 冊	稲賀敬二 著 女流歌人 中務—歌で伝記を辿る— 978-4-7879-6775-6 B6並製 384頁 2800円	新典社選書 25 女流歌人中務の歌を愛し、その人となりを愛した著者が、珠玉の歌から辿る中務の人物伝。短歌雑誌『磔』への連載から、遺稿を含むすべての原稿を収録し、さらには著者への書評も収めた、待望の完全版!

◆新典社選書シリーズ◆

注文部数 冊	三野恵 著 新典社選書 26 苺萱道心と石童丸のゆくえ—古典世界から現代へ— 978-4-7879-6776-3 B6並製 144頁 1260円	父子の悲哀を描いた苺萱道心の物語。時代によって、結末や展開に様々な様相を見せるかや物語変遷の過程を、中世の古典から、江戸の芝居、近代の講談、そして現代の絵本やマンガまで辿る。
注文部数 冊	竹野静雄 著 新典社選書 27 江戸の恋の万華鏡—『好色五人女』 978-4-7879-6777-0 B6並製 256頁 1700円	江戸時代、身を滅ぼすような恋に人生をかけた五人の女がいた。実話を元に西鶴の筆がまざまざとよみがえらせた恋物語五編が、読みやすい抄訳と絵入りで、万華鏡のようにめくるめく。
	園明美 著 新典社選書 28 王朝撰関期の「妻」たち—平安貴族の愛と結婚— 978-4-7879-6778-7 B6並製 112頁 1000円	並列的な一夫多妻制だと思われていた平安期の婚姻。だが、複数の妻たちには、正妻を筆頭にした確かな序列があった。一人の正妻を決定する意義、そしてその後の正妻の地位や安定性とは。華やかな王朝撰関期。貴族たちの権力構図に大きな影響をもつ婚姻の問題と、その「妻」たちの姿に迫る。
注文部数 冊	菊池威雄 著 新典社選書 29 万葉 恋歌の装い 978-4-7879-6779-4 B6並製 208頁 1400円	美しいことば、日本語。その原点である万葉集から恋の歌を取り上げ、いまなお惹きつけられてやまない美しい情念の数々を読む。
注文部数 冊	和田正美 著 新典社選書 30 文明批評の系譜—文学者が見た明治・大正・昭和の日本— 978-4-7879-6780-0 B6並製 208頁 1400円	近代、文学作品という手段を通じて文明はどのように評されたか。鷗外・漱石・荷風ほか六名の文豪たちによる文明批評の言説を辿る。
注文部数 冊	日沖敦子 著 新典社選書 31 毛髪で縫った曼荼羅—漂泊僧 空念の物語— 978-4-7879-6781-7 B6並製 188頁 1500円	江戸前期。即心仏を目指して穀物を断ち、諸国を遍歴し、在地の人々の毛髪を求めては曼荼羅を縫いあげた僧侶・空念の物語。毛髪曼荼羅のカラー口絵つき。
注文部数 冊	小町谷照彦 著 新典社選書 32 あらすじで楽しむ源氏物語 978-4-7879-6782-4 B6並製 224頁 1600円	百人一首板本の源氏絵、源氏かるた絵合風の香図趣意絵など、各巻図版満載でめぐる源氏物語の世界。寺子屋以来の教養涵養の一つのあり方として、絵とあらすじを用いた、古典へのやさしいいざない。
注文部数 冊	吉海直人 著 新典社選書 33 「いろはかるた」の世界 978-4-7879-6783-1 B6並製 198頁 1600円	かるた成立以前のいろは歌、歌かるたの系譜に連なるいろはかるたの新たな成立論。絵札やことわざを楽しみながら、京・江戸・上方のいろはかるたを図版とともにめぐる。カラー口絵つき。
注文部数 冊	宮崎莊平 著 新典社選書 34 土屋文明私論—歌・人・生— 978-4-7879-6784-8 B6並製 260頁 2100円	土屋文明の出自、妻子など家族のこと、足利・諏訪・松本等各地域とのかかわり、人々との対外的な関係、そして独自の生き方等々に焦点を据え、文明の歌とともにたどる。土屋文明生誕120年、没後20年の年におけるひとつの土屋文明私論。
注文部数 冊	伊東玉美 著 新典社選書 35 宇治拾遺物語のたのしみ方 978-4-7879-6785-5 B6並製 176頁 1300円	鎌倉時代から今日までの平均的読者がとらえ、感じてきた『宇治拾遺物語』のおもしろさとは。説話のたのしみ方を知るガイドブック。
注文部数 冊	小谷野純一 著 新典社選書 36 更級日記への視界 978-4-7879-6786-2 B6並製 368頁 2700円	『更級日記』は単なる紀行文ではない。上洛の記は内なる視点から旅の秩序化がはかられ、少女期の物語への没入は夢を通じた信仰世界への啓示や論告という他の日記には見られない特質がある。いくなれば内面史の試みとして現前している『更級日記』を、日記内それぞれの世界に向き合い解きほぐしていく。
注文部数 冊	三村晃功 著 新典社選書 37 古典和歌の世界—歌題と例歌(証歌)鑑賞— 978-4-7879-6787-9 B6並製 256頁 1700円	高度文明の現代にあつて、閉塞感に苛まれる人々たち。古典和歌という文芸の豊穡さが現代人に生きる糧を与えてくれる。四季の歌や恋の歌など、歌題と例歌で辿る和歌の世界。
注文部数 冊	中畑充弘 著 新典社選書 38 沖縄 備瀬—あの世につながる聖空間— 978-4-7879-6788-6 B6並製 192頁 1400円	沖縄本島北部突端に、カミと交感しそして死後の世界と隣接する場所がある。フクギの緑豊かな美しい聖域、知られざる備瀬。
注文部数 冊	石井龍太 著 新典社選書 39 島瓦の考古学—琉球と瓦の物語— 978-4-7879-6789-3 B6並製 212頁 1800円	琉球の風景に印象的な赤い瓦。しかし、琉球諸島の瓦はもともと赤い色ではなかった。見過ごされてきた琉球「島瓦」の変遷を辿る。
注文部数 冊	大島龍彦 著 新典社選書 40 智恵子抄を読む 978-4-7879-6790-9 B6並製 176頁 1300円	高村光太郎と智恵子の愛の軌跡『智恵子抄』。その作品解釈を中心に詩集の内容を「人恋い譚」「同棲譚」「妻恋い譚」の三部にわけ、ふたりが過ごした時間や背景に配慮しつつ、詩のそのものの核心を見出す。
注文部数 冊	吉海直人 著 新典社選書 41 百人一首を読み直す—非伝統的表現に注目して— 978-4-7879-6791-6 B6並製 264頁 2300円	百人一首に選ばれている程の歌は、有名かつ伝統的な歌に違いないと盲信してはこなかったらうか。伝統的ではない(非歌語)表現が百人一首解読のキーワードの一つであることに注目し、藤原定家の斬新な秀歌意識に迫る。

◆新典社選書シリーズ◆

注文部数 冊	吉海直人 著 『住吉物語』の世界 978-4-7879-6792-3 B6並製	新典社選書 42 276 頁 2400 円	古本が存在せず伝本諸本も煩雑な『住吉物語』。しかし物語における不変のモチーフ・表現など、改作本へと継承されているであろう形跡もたしかにうかがえる。「不変性」を切り口に『源氏物語』以前の古典として『住吉』を論じ、停滞する研究を切り拓く。
注文部数 冊	小谷野純一 著 讃岐典侍日記への視界 978-4-7879-6793-0 B6並製	新典社選書 43 368 頁 2700 円	病苦にあえぐ堀河帝を愛し、凝視しつづけた上巻の看病記。堀河帝亡き後、鳥羽帝へ出仕しつつも藤原長子は情動のうねりにいのちを預け、下巻の出仕録は現在過去をめぐり行き来し、やがて長子は狂気に襲われる。平安日記としても異彩を放つ長子の『讃岐典侍日記』。その叙述世界に踏み込み、つぶさに読み解く。
注文部数 冊	藤本宗利 著 『枕草子』をどうぞ一定子後宮への招待— 978-4-7879-6794-7 B6並製	新典社選書 44 176 頁 1300 円	定子後宮で繰り広げられる知的競技のような応酬は、同時代の女房日記に見られるような集団の中で個絶する魂の呻きの代わりに、後宮女房ならではの公的な場での駆け引きの見事さがある。「後宮文学」として読み直す『枕草子』の魅力。
注文部数 冊	鈴木武晴 著 窪田空穂と万葉集—亡き母挽歌と富士関係歌— 978-4-7879-6795-4 B6並製	新典社選書 45 320 頁 2400 円	万葉集を考慮して詠まれた、窪田空穂の亡き母挽歌「藤衣」が、斎藤茂吉に与えた影響とは。また、窪田空穂の富士関係歌に生かされた万葉集短歌連作の型とは。万葉集研究者であり歌人でもある著者が、万葉集と窪田空穂の歌との有機的関わりをつぶさに読み解く。
注文部数 冊	古田島洋介 著 これならわかる漢文の送り仮名—入門から応用まで— 978-4-7879-6796-1 B6並製	新典社選書 46 208 頁 1500 円	漢文を訓読する際、日本人に必須となる句読点・返り点・送り仮名。そのうち、送り仮名について体系的な説明を試みる。豊富な例文と用例、巻末には練習問題および解答例・解説つき。
注文部数 冊	田中康二 著 国学史再考—のぞきからくり本居宣長— 978-4-7879-6797-8 B6並製	新典社選書 47 256 頁 1800 円	現代の日本文学・国語学・史学・民俗学。それらのルーツは江戸時代の国学に他ならない。国学創始以来三百年におよぶ歴史を本居宣長を通じて繙き、統一した国学像を描きつつ、国学の本質に迫る。
注文部数 冊	岡本隆雄 著 「一分」をつらぬいた侍たち—『武道伝来記』のキャラクター 978-4-7879-6798-5 B6並製	新典社選書 48 208 頁 1500 円	井原西鶴が、独自のアイデアをもって理想的な武士の生き様を描いた『武道伝来記』。その魅力あふれる人物たちはいかにして生まれたのか。当時の歌舞伎の様相なども視野に入れ、西鶴の魅力の根源を探る。
注文部数 冊	田中善信 著 芭蕉の学力 978-4-7879-6799-2 B6並製	新典社選書 49 160 頁 1100 円	聖とあがめられる松尾芭蕉は決して高度な知識人ではなく、本人も自らの学力不足には極めて自覚的であった。自筆本『おくのほそ道』に残された誤記・誤用から、芭蕉の学力、教養、そして筆跡の問題に迫る。『おくのほそ道』で芭蕉はなにを志向したのか。
注文部数 冊	中田節 著 大道具で楽しむ日本舞踊 978-4-7879-6800-5 B6並製	新典社選書 50 240 頁 2000 円	京都で生まれ、日本舞踊の大道具に囲まれ育った著者による、大道具の目線からみた日本舞踊。大道具の出来る過程、大道具の見せ方、東西の違いなど。伝統芸能の舞台を一度も観たことがない人から、実際に舞台上で踊る人まで、気軽に楽しめるやさしい文体と専門職ならではの鮮烈な視点がいざなう日本舞踊の世界。
注文部数 冊	平井芽阿里 著 宮古の神々と聖なる森 978-4-7879-6801-2 B6並製	新典社選書 51 272 頁 2000 円	十六歳の少女が初めて沖縄を訪れたのは「うりずん」(初夏)のことだった。神様のいる島で高校時代を過ごした少女は、以後も突き動かされるように宮古島に赴き続け、その場所や風景を体感し、ときに共感してきた。目にはさやかに見えなくても、尊く・美しい、聖なる森の世界。
注文部数 冊	小田剛 著 式子内親王—その生涯と和歌 978-4-7879-6802-9 B6並製	新典社選書 52 176 頁 1300 円	「玉のをよ絶なばたえねながらへば忍ぶる事のよはりもぞする」の絶唱で知られる、新古今随一の閨秀(女流)歌人・式子内親王。その生涯(生)と和歌(表象)について、最新の研究成果を踏まえ一般向けに書き下ろした。
注文部数 冊	三村晃功 著 古典和歌の文学空間—歌題と例歌(証歌)からの鳥瞰— 978-4-7879-6803-6 B6並製	新典社選書 53 448 頁 3200 円	前著『古典和歌の世界—歌題と例歌(証歌)鑑賞—』では対象外にした、約百の歌題と例歌(証歌)約五百七十首を粗上に乗せて詳細に論述し、前著の補完を企図して、題詠歌による和歌の世界・文学空間の完全な構築を目指す。
注文部数 冊	原國人 著 物語のいでき始めのおや—『竹取物語』入門 978-4-7879-6804-3 B6並製	新典社選書 54 160 頁 1100 円	「物語のいでき始めのおや」といわれる一方、その成立状況には謎の多い『竹取物語』を丁寧に読み解くことで見えてくるものとはなにか。内容と構造、言語遊戯(洒落、修辭法)のふたつを軸に、物語成立の謎に迫る。
注文部数 冊	廣田收 著 家集の中の「紫式部」 978-4-7879-6805-0 B6並製	新典社選書 55 256 頁 1800 円	紫式部の歌および紫式部集の独自性について分析する。物語作者である紫式部は儀式や行事の中でなにを歌い、なにを託したか。
注文部数 冊	杉本完治 著 森鷗外 永遠の問いかけ 978-4-7879-6806-7 B6並製	新典社選書 56 300 頁 2200 円	高瀬舟・興津彌五右衛門の遺書を正しく読むための知識を丁寧に綴る。鷗外生誕150周年、そこに描かれる「生の意味」とは。
注文部数 冊	田口章子 編 京都のくるわ—生命を更新する祭りの場— 978-4-7879-6807-4 B6並製	新典社選書 57 192 頁 1400 円	京都のくるわは、発生源を歌舞伎と同じくし、伝統文化の精粋を保つ祭りの場である。神事同様のもてなしが行なわれ、「生命更新」の機能をもつ。「ジェンダー」や「性」を超越した手あかのついていない、新しいくるわ論。

◆新典社選書シリーズ◆

注文部数 冊	鈴木久 著 方丈記と往生要集 978-4-7879-6808-1 B6並製 128頁 1000円	新典社選書 58 二〇一二年は『方丈記』成立から八〇〇年。鴨長明が方丈記を記した隠遁生活において、自前の楽器や和歌とともに持ち込んだ往生要集は長明の信仰生活の指針であった。
注文部数 冊	三村晃功 著 古典和歌の時空間—「由緒ある歌」をめぐって— 978-4-7879-6809-8 B6並製 288頁 2100円	新典社選書 59 古典和歌の世界および文学空間を構築する「歌」を考察する第三弾。歌題の視点から多彩な古典和歌の世界に照射を与えた前二作に続き、和歌説話を担って成立した「由緒ある和歌」の深淵世界に踏み込む
注文部数 冊	大木正義 著 作品の表現の仕組み—古典と現代 散策— 978-4-7879-6810-4 B6並製 176頁 1300円	新典社選書 60 伊勢物語から渡辺淳一まで古典から現代の諸作品における細かな表現に立ち止まり、作者が作品に託したひそかな意図を読み解く。
注文部数 冊	菊池威雄 著 鎌倉六代将軍宗尊親王—歌人将軍の栄光と挫折— 978-4-7879-6811-1 B6並製 224頁 1600円	新典社選書 61 鎌倉六代将軍宗尊親王の将軍時代は、鎌倉と朝廷との関係が最も安定し、宮廷文化と鎌倉の文化が雅を帯びて輝いた時代である。和歌をこよなく愛した親王は、和歌を権威の軸に据えて鎌倉に君臨しようとした。その宗尊親王の実像を具体的に描きつつ、親王の和歌を和歌史的な視点から捉えその特質や意義の検証を目指す。
注文部数 冊	柳澤浩哉 著 『こころ』の真相 漱石は何をたくらんだのか 978-4-7879-6812-8 B6並製 256頁 1800円	新典社選書 62 日本人に最も愛される小説、こころ。その最重要案件にして実に不可解なKの自殺の原因は、従来いわれるような先生の裏切りにあったのか。これまで見過ごされてきた矛盾や不合理を、物語を丹念に奥深く読むことで解明し、漱石が意図したこころの真相を浮かび上がらせる。
注文部数 冊	三村晃功 著 続・古典和歌の時空間—長流と契沖の「由緒ある歌」の展望— 978-4-7879-6813-5 B6並製 416頁 3100円	新典社選書 63 古典和歌の世界および文学空間を構築する「歌」を考察する第四弾。よい歌を作るための「由緒ある歌」を収集した一条兼良の『歌林良材集』に続いて記された、下河辺長流の『続歌林良材集』と契沖の『続後歌林良材集』。前作の続編として、この二冊の歌論書が扱う題目にそって題詠歌の故実や伝説をつぶさに紹介する。
注文部数 冊	野村幸一郎 著 白洲正子—日本文化と身体 978-4-7879-6814-2 B6並製 208頁 1500円	新典社選書 64 神仏習合を本来の日本文化の姿、あるいは、民族文化の姿として繰り返し強調する白洲正子の日本文化論は、彼女がたえず近代化の過程で隠蔽された本来の日本人のありように向けたまなざしから生まれたものである。小林秀雄、能楽、信仰、かくれ里、神仏習合を切り口に白洲正子とその目を通して発見した日本文化をたどり、随筆の再評価を試みる。
注文部数 冊	久保朝孝 編 女たちの光源氏 978-4-7879-6815-9 B6並製 208頁 1500円	新典社選書 65 光源氏との恋における一方の当事者である女君たちの立場や視線から源氏物語を読みなおすことで、絶対者光源氏の相対化を図る。藤壺・紫の上・女三の宮・六条御息所・朧月夜・花散里・明石の君・空蝉・夕顔・末摘花・秋好中宮・朝顔・玉鬘。女君たちにとっての光源氏とは。
注文部数 冊	中川桂 著 江戸時代落語家列伝 978-4-7879-6816-6 B6並製 240頁 1700円	新典社選書 66 落語の発生から寄席で演じられる形が整うまでを、上方を中心に落語家個人々に着目しつつたどる。落語の歴史を知ることで、いまの落語をより一層楽しむための一冊。
注文部数 冊	鈴木啓吾 著 能のうた—能楽師が読み解く遊楽の物語— 978-4-7879-6817-3 B6並製 400頁 3200円	新典社選書 67 観世流能楽師の鈴木啓吾が自身の舞台を勤めるにあたり執筆してきたご好評のコラムを元に、待望の一冊が完成! 能の題材となった和歌や漢詩の、大胆にしてやさしい解説から、能の作者が発想を得た源、そして能楽師である著者の想いを知る。
注文部数 冊	三村晃功 著 古典和歌の詠み方読本—有賀長伯編著『和歌八重垣』の文学空間— 978-4-7879-6818-0 B6並製 352頁 2600円	新典社選書 68 初心者向けの和歌の指南書である有賀長伯『和歌八重垣』に依拠し、詠作者の視点から古典和歌を見直し考察することで、従来の和歌の読解・鑑賞の在り方に新たな道を切り開く。
注文部数 冊	志村有弘 著 役行者のいる風景—寺社伝説探訪— 978-4-7879-6819-7 B6並製 120頁 1000円	新典社選書 69 役行者の石像は各地にある。幼い頃からカメラに親しみ、怪談断を愛好し、墓を遊び場にしていた著者が、自然とひかれていった不思議な存在・役行者。本書はその「超人役行者小角」の存在する風景を、著者が歩いて撮影した写真で紹介し、またその写真から見る姿を通して役行者の歴史上の存在意義を考察する。
注文部数 冊	志水義夫 著 澁川春海と谷重遠—双星煌論— 978-4-7879-6820-3 B6並製 192頁 1400円	新典社選書 70 江戸の澁川春海と土佐の谷重遠は書簡を通じた師弟関係にあり、天文・暦術・神道・兵学が記された膨大な書簡が残る。この二人のたった一度の面会の様子を中心に、元禄の学者たちの世界を見る。
注文部数 冊	森岡ゆかり 著 文豪の漢文旅日記—鷗外の渡欧、漱石の房総 978-4-7879-6821-0 B6並製 292頁 2300円	新典社選書 71 森鷗外のドイツへの船旅を綴った『航西日記』と、夏目漱石の房総旅行を綴った『木屑録』はともに漢文で書かれている。わかりやすいダイジェストで日記を読みつつ、文豪たちの青年期の旅路を追う。
注文部数 冊	人見千佐子 著 リアルなイーハトーヴ—宮沢賢治が求めた空間— 978-4-7879-6822-7 B6並製 320頁 2300円	新典社選書 72 人々が『雨ニモマケズ』に直感的に感じる何かの正体とは。賢治を追体験しつつ、イーハトーヴの構築過程とその本質を明らかにする。
注文部数 冊	田中徳定 著 義経伝説と鎌倉・藤沢・茅ヶ崎 978-4-7879-6823-4 B6並製 272頁 2000円	新典社選書 73 悲劇的最期を遂げ、後世には様々な伝説や、判官最良という心情を生んだ源義経。よく知られた義経ジギスカン伝説とは異なる伝承が、鎌倉・藤沢・茅ヶ崎界隈にある。義経に関する史料や文学、寺社・史跡から、湘南の地に伝わる伝説と信仰を明らかにする。

◆新典社選書シリーズ◆

注文部数 冊	野村幸一郎 著 日本近代文学はアジアをどう描いたか 978-4-7879-6824-1 B6並製 256頁 1800円	新典社選書 74 フェノロサ・森鷗外・岡倉天心・夏目漱石・後藤新平・佐藤春夫・林芙美子・保田與重郎・坂口安吾。近代日本を生きた文化人によるアジアへの認識とその脱亜・興亜の表象を見渡す。現代のアジア観に至るまでの道筋とは。
注文部数 冊	原槇子 著 神に仕える皇女たち—齋王への誘(いざな)い— 978-4-7879-6825-8 B6並製 224頁 1600円	新典社選書 75 「齋王」とはどのような人をいうのか、どういう時代に「齋王」は生き、どんな生き方をしたのか。歴史に描写された齋王たちを紹介しながら、齋王をわかりやすく概論し、文学において物語化された齋王、虚構の齋王にも言及する。
注文部数 冊	井上隆史 著 三島由紀夫『豊饒の海』VS野間宏『青年の環』—戦後文学と全体小説— 978-4-7879-6826-5 B6並製 192頁 1400円	新典社選書 76 生誕90年の三島と生誕100年の野間。戦後文学の正統と異端、政治的・思想的にも対極にある二人の窮極の大作を、今、読み直す。
注文部数 冊	矢内賢二 編 明治、このフシギな時代 978-4-7879-6827-2 B6並製 208頁 1500円	新典社選書 77 明治の演劇・百貨店美術館構想・文学における恋愛観・音楽教育・裸身への意識。「日本史の授業では学べない明治文学史」として好評を博した東京藝術学会でのオムニバス講義を一冊に!
注文部数 冊	岡山典弘 著 三島由紀夫の源流 978-4-7879-6828-9 B6並製 256頁 1800円	新典社選書 78 作家・三島由紀夫という巨大な存在はどのようにして誕生したのか。母方の親族や少年期に憧れた作家、自決直前の刺青にまつわるエピソード、他の作家によって書かれた三島像など、様々な角度からその素顔にせまる。
注文部数 冊	志水義夫 著 ゴジラ傳—怪獣ゴジラの文藝学— 978-4-7879-6829-6 B6並製 240頁 1700円	新典社選書 79 2014年のゴジラ60周年を機に、注釈という形で『ゴジラ』に向き合い、東海大学での授業の題材としてきた著者。その成果が待望の一冊に!昭和29年公開の『ゴジラ』の文学的注釈から昭和ゴジラ、平成ゴジラ、ミレニアムまで言及。映画作品一覧、聖地案内つき。
注文部数 冊	京都仏教説話研究会 編 説話の中の僧たち 978-4-7879-6830-2 B6並製 328頁 2400円	新典社選書 80 仏教説話・世俗説話・史書・軍記などにおける僧の描かれかたに着目し、作品ごとに考察する。説話集が描く僧の多様性とは。背景となった歴史や社会とは。
注文部数 冊	小野恭靖 著 古典の叡智—老いを愉しむ 978-4-7879-6831-9 B6並製 240頁 1700円	新典社選書 81 日本古典から、老いを生きるひとたちの喜怒哀楽や、老いに必要な知恵についての金言を抜粋し解説を施した。先人たちから知る人生の道しるべ。
注文部数 冊	吉海直人 著 『源氏物語』の特殊表現 978-4-7879-6832-6 B6並製 304頁 2200円	新典社選書 82 源氏物語には他の古典にない特殊な表現や用法が見られる。時めく・上衆めく・ひとりごつ・さしつぎなどから、物語の読みを深める。
注文部数 冊	古田島洋介 著 これならわかる復文の要領—漢文学習の裏技— 978-4-7879-6833-3 B6並製 328頁 2400円	新典社選書 83 「復文」とは、書き下し文から漢文の原文を復元する学習法で、漢文に熟達するための近道として江戸時代から活用されてきた。この「復文」を現代の漢文読解に役立てる方法と実践問題を入門篇から応用篇まで網羅した新たな手引書。
注文部数 冊	矢内賢二 編 明治、このフシギな時代2 978-4-7879-6834-0 B6並製 128頁 1000円	新典社選書 84 日本史の授業では学べない明治文化史として人気の講座・第二弾。三井家の建築と生活、歌舞伎と西洋、明治時代の正岡子規、廃仏毀釈の影響。
注文部数 冊	廣田収・勝山貴之 著 源氏物語とシェイクスピア—文学の批評と研究と— 978-4-7879-6835-7 B6並製 232頁 1700円	新典社選書 85 文学を研究することはいかなる営みであるのか。日本文学と英文学を専門とする研究者が互いの話に耳を傾け、文学との向き合い方について語り、また古典をはじめ読むための留意点についてやさしく解説する。
注文部数 冊	繁田信一 著 下級貴族たちの王朝時代『新猿楽記』に見るさまざまな生き方 978-4-7879-6836-4 B6並製 200頁 1500円	新典社選書 86 王朝時代の漢学者藤原明衡が記した新猿楽記には、博徒・武者など現代からすれば意外な職能に従事する貴族が描かれる。貴族社会において最下層にあった下級貴族たちの多様にして魅力的な生き様とは。